

プランに関する御意見

- 第 1 回 「食育推進部会」「身体活動・運動推進部会」「口腔保健部会」（8 月 1 7 日）
- 第 1 回 「たばこ対策推進部会」「適正飲酒推進部会」（8 月 1 8 日）
- 第 1 回 京都市民健康づくり推進会議（9 月 1 3 日）
- 第 2 回 「食育推進部会」「身体活動・運動推進部会」「口腔保健部会」（1 0 月 2 0 日）
- 第 2 回 「たばこ対策推進部会」「適正飲酒推進部会」（1 0 月 2 5 日）

（健康寿命）

- 京都市の女性の健康寿命は低いという結果であるが、介護保険の認定率や平均寿命など、様々な観点で評価をしたほうがよい。

（身体活動・運動）

- 若年層に運動習慣が浸透していない。若い方へのアプローチが必要。
- 京都市が推進する「プラスせんぼ」は、更に広めていくべき取組であると思う。周知する際には、せんぼの具体的なイメージがわかるように記載してほしい。
- 今後の課題として、年齢に応じた適切な歩行速度や歩幅なども検討してもよいのではないか。

（喫煙）

- プラン取組方針 1 の代表例 1 の中で、望まない受動喫煙をなくすというメッセージを入れてほしい。
- 最近では、加熱式たばこ等の新型たばこが多く流通している。新型たばこについて、啓発できないか。

（口腔保健）

- 3 歳児ごろからむし歯が増えていく。歯みがき習慣を身に付けておく必要がある。
- 歯科健診も同様に、受診が控えられている。健診を控えることによるマイナスの側面を訴える必要がある。各健（検）診を合わせて紹介することも効果的ではないか。
- 8 0 2 0 運動（8 0 歳になっても 2 0 本以上自分の歯を保とう）の推進により、残っている歯の本数に着目されがちであるが、更に噛み合っているなど機能面も重要である。

(食育)

- ライフステージにおける20代女性のやせ、40代男性の肥満は課題である。大学保健や産業保健などとの連携も重要。
- 食育においては、幼少期からしっかりと食べることが重要。
- 食への関心は健康への関心につながる。京料理が国の登録無形文化財となったことも踏まえて、関心を高めていくことが必要。
- 文化庁の移転や京都の食文化などを活かして、おいしく食べるという視点を大事にしたい。
- 食育については、食べることだけではなく、地産地消やフードロスの観点も重要である。
- 国の計画（健康日本21（第三次））の中でも、食塩摂取量の減少が掲げられており、減塩についても記載してほしい。
- 若い世代の朝食の摂取率が低いところが気になっている。忙しい世代でもあるため、どうしたら朝食を食べるのか難しい課題である。

(その他)

- コロナ禍でがん検診の受診が控えられており、課題である。
- 健康無関心層に対する取組が重要である。例えば、かかりつけ医・かかりつけ歯科医を持つことを啓発できないか。
- 薬局においても、「健康サポート薬局」として、地域住民による主体的な健康の維持・増進を積極的に支援している。こうした状況も踏まえ、かかりつけ薬剤師を持つことも加えていただきたい。
- 睡眠についても、国の計画（健康日本21（第三次））の中で強調されている。睡眠・休養という観点も必要である。
- 例えば、10年後に80歳代での健康状態を評価するときには、70歳代の方に啓発する、ということ意識したほうがよい。